

Hito-Toki

Prologue

オフィス街に囲まれた都会の小学校の佇まいは、まるで防衛基地である。校庭と外部環境には、互いに活発なアクティビティが存在するにも関わらず、高いフェンスや樹木によって意図的に断絶され、関係することが出来ない。そのような都会の小学校の境界をリノベーションし、アフオーダンス性の高い魅力的な場所として共有することで、子どもと大人が互いの距離を身近に感じ、同じ時間・作業を共有することを通して、永く向き合える関係をつくりだす。



site

中央区にある京橋築地小学校は典型的な都会の中の小学校である。校庭の西側はオフィスビルが建ち並び、東側は交通量の激しい大通りに面している。大通り沿いには地下鉄の出入り口、バス停、歩道橋があり活発な人の流れと溜まりがあるが、学校との境界に高さ6m程のフェンスと、その内側の樹木によって向き合うことが出来ない。また校庭のトラックの周囲にある遊具が少なく、新しい遊びの発見に溢れるような「端っこ空間」も貧しいため、全体として整然とした印象の小学校である。

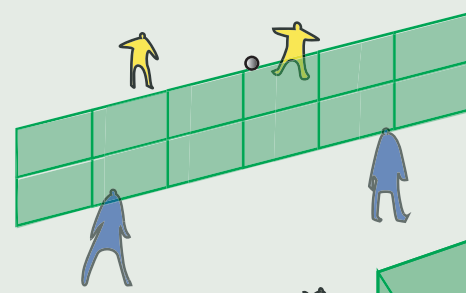


地下鉄築地駅入り口
バス停
歩道橋

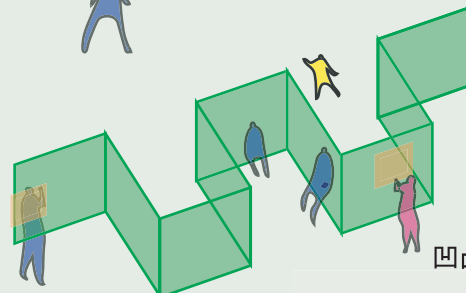


Diagram

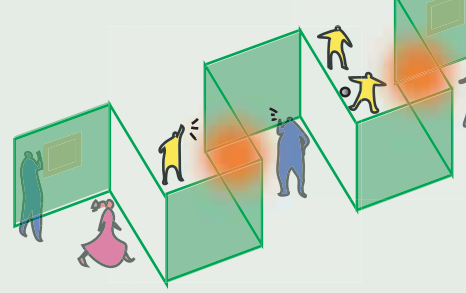
child
adult



内/外の関係を絶ってしまう境界



凹凸を持たせると人の溜まる空間ができる



様々な仕掛けを施すことで境界が横のつながりを持ち始める



・菜園ゾーン
畑や菜園を媒介として、お互いが時間と愛情をかけて向き合う場所。都市景観の改善というテーマに対しての共同作業でもある。



・ギャラリーゾーン
相手側の空間に自分たちをプレゼンテーションできる。子どもたちは授業で作った絵や工作など、大人たちは職業の紹介や趣味の写真など。自己表現の対話。作品を眺めている横目に、その作品の作者に出会えるかもしれない



・ビオトープゾーン
水と生物、憩いの空間。バスを待つ時間に子どもの様子を眺めてみては？そこには壁による仕切りは必要ない。お互いの領域が水のようににじみ出す。



・アスレチックゾーン
オフィスビルの向かいに子どもの遊び場が配置される。休憩時間、夢中になって遊ぶ子どもたちについて目をやってしまう。暗いオフィスビルの通りをにぎやかに。